令和５年度　第２回函南小学校支援会議（学校運営協議会）記事録

令和５年１０月１９日（木）

〈参加者〉学校運営協議会委員　○稲葉優子　○辻　真人　○加藤ひとみ
○今井亨英（欠）　○古川雅彦　○石井雅隆
○山地美由紀　○鈴木　薫
函南小学校　○校長　○教頭　○教務

１　会長挨拶

コロナ禍が過ぎ、学校にも活気が戻ってきた。この支援会議は外部の視点から学校を支援していく手助けをするためにある。活発なご意見お願いします。

２　校長挨拶

夏休み明けにコロナ感染者がいたが、今はインフルエンザが流行している。そんな中、修学旅行に無事行ってくることができた。残念ながら４人の欠席者があった。また、けがにより車椅子で参加したした児童もいた。１５０周年事業として、バルーンリリース・グランドのタイヤ交換、そして「学びの集い」後に、航空写真を予定している。本日はよろしくお願いします。

３　協　議

（１）前期学校評価アンケート結果と考察

・「学校は楽しい」の項目　毎年高い評価で維持されている。
・「函南スタンダード」令和５年度一新された。挨拶、読書、函南の良さがわかるどう指導していくか。
・自分の良さ　自己肯定感を上げるには、自己有用感から。

（２）全国学力学習状況調査の結果と考察

・国語は正答率が高く、ほとんどの項目で全国、静岡県平均を上回っている。
漢字を書く問題が弱い。
情報の扱い方に関する事項が弱い。
・算数も正答率が高い。すべての項目で全国、静岡県平均を上回っている。
図形に少し苦手傾向がある。
・質問紙では、生活のリズムが一定の児童は、国語算数の正答率が高い傾向にあることがわかった。また、読書量と正答率は比例している。

（３）各委員より

鈴木委員

子供たちは、「自分のことは嫌い」という子が多い。自分のことを理解するのには、高学年にならないと難しい。低中学年は客観的に自分を見られないのではないか。家庭や地域で認めてもらえて、自己肯定感は育まれるのだろう。

加藤委員

「あの人のようになりたい」と目標としている人がいるかどうか。家庭で褒めていくことが大事。

辻委員

自分の良さを自分で言うのは、奥ゆかしさを重んじる日本人の気質では難しい面もある。精神的に成長しないと目標をもてないし、自己肯定感も上がらない。

私たち親は、手本となり「大人になりたい」と思う子供を育てる必要がある。人生は楽しいと感じさせたい。我が家では、「疲れた」という言葉は決して発しないようにしている。そうすることで、子供は優しく接してくれるようになった。

稲葉委員

「自分でできた」という経験が土台となり、次のステップにつながる。子供が好きなものに出合うことができるように、周りの大人が気づいてあげることが大事。

古川委員

学力調査の結果から、学力は素晴らしいと思う。

地域の仁田祭りには、昨年度はなかなか参加者が集まらなかったが、今年は盛大にできた。子供会の活動がなくなっている中、まとめてくれるような人材がほしい。そのような人材がいることにより、地域が活性化するだろう。

山地委員

人はたくさんいるのだが、行事がなく人集めが大変である。個人が忙しすぎるのが原因。習い事で生活のリズムが一定にならず、スポーツを優先させると、友達との時間が合わず、遊ぶことができない。活動が十分でないと夜早く寝ない、読書の時間がない等の悪循環になってしまっている。

加藤委員

　学力調査は、毎年６年生が変わっていくので、比較するものではない。新聞をとっていない家庭が多くなり、情報源が様々な現代。学力調査の問題は、生活に根差した問題があり、問題慣れしていないこともある。

石井委員

　子供が様々な良さを知る。大人は良さを分かっているのだろうか。やはり、親と子が接する時間を確保し、良いコミュニケーションをとっていくことだろう。